

台湾のおもいで

情報サービス部
石原 滉士
ISHIHARA KOJI

父の単身赴任先の台湾に遊びに行ったのはもう10年以上前である。当時私はまだ小学生だったこともあり、今や記憶はほとんどないが、2つだけ、いまだに色濃く残っていることがある。

ひとつはタクシー運転手リーさんだ。彼は私たちが台湾に滞在している間、付きっきりで面倒を見てくれた。夜市に向かう時も、日はとうに暮れていたが、やさしい笑顔で送迎してくれた。

もうひとつは、2人組の女性が風船をくれたことだ。台北のどこかの公園を歩いていた時、偶然すれ違った彼女らは持っていた風船を当然のようにプレゼントしてくれた。拙い発音の「謝謝」に対しても満面の笑みを送ってくれたのをよく憶えている。

さて、現在台湾はいくつかの困難に直面してい

る。当時と同じように彼らが笑顔でいられていることを願うばかりだ。また、彼らから貰った幸せな気持ちをいつか返したいと思いつつここまで来てしまったことを反省している。あのとき小学生だった私も今や社会人になり、できることも多くなった。感謝するだけでなく、今年こそは行動で示したい。



編集後記

本号の巻頭では、建設ディレクターの方にお集まりいただきました座談会の内容を掲載しています。建設現場における様々な業務を、ITとコミュニケーション力で支援し業務改善を図り、各社、工夫や努力されている様子や、電子 manifests の利用状況など現場の声を共有いただき貴重な機会となりました。

本号より連載が始まりました。国立環境研究所フェローの大迫政浩様に、13年間向き合ってこられました福島環境再生事業について、「福島環境再生の経過と現在」と題し、放射性汚染廃棄物等の適正処理の課題に、技術的にどのように対処してきたか、また、将来に向けた課題について9頁にわたりご解説いただいています。

産廃鼎談では、ESG投資の専門家の小野塚恵美様をお迎えし、脱炭素社会、循環型社会におけるESG投資についてお話しいただきました。小野塚様は再生プラスチックの繊維で作られたワンピースをお召しになられて、ピンクとグリーンの色合い、また腰から広がるフォルム、とても素敵でお似合いでいらっしゃいました。

産廃クローズアップでは、積水ハウス様のエコ・ファーストパークに施設見学をさせていただき、ゼロエミを支えるための手選別の様子や、施工現場での分別ルールなどを取材し報告しております。

最後に、ご執筆いただいた皆様、取材にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。(広報室)

「近隣散策」は、センターホームページに掲載しております。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/assets/files/kikansi_202407_h3.pdf

■本誌に関する連絡先：総務部広報室 (e-mail:jigy@jwnet.or.jp)

<アンケートへのご協力のおお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ(以下のURL)に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JWセンター情報(季刊) VOL.24 NO.2

発行日：2024年7月16日発行 発行人：関莊一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号
上野フロンティアタワー 13階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術